

もの忘れひどくありませんか？

看護師 岡 絵理

もの忘れには、老化によるもの忘れと病気による認知症のもの忘れがあります。

歳のせいだけとはいええないひどいもの忘れに加えて、物事を考えたり判断することが苦手になり、日常生活に支障がみられるようになった状態が認知症です。認知症の患者数は、年齢を重ねるとともに増加し、75歳以上では5人に1人が認知症になるといわれています。

認知症の早期発見 チェックしましょう！

もの忘れがひどい

- 同じことを何度も言う・問う・行う
- しまい忘れ・置き忘れが増え、いつも探し物をしている
- 財布・通帳・衣類などを盗まれたと人を疑う
- 今切ったばかりなのに、電話の相手の名前を忘れる

判断・理解力が衰える

- 話のつじつまが合わない
- 新しいことが覚えられない
- 料理・片付け・計算（買い物）・運転などのミスが多くなった
- テレビ番組の内容が理解できなくなった

時間・場所がわからない

- 約束の日時や場所を間違えるようになった
- 慣れた道でも迷うことがある

人柄が変わる

- 些細なことで怒りっぽくなった
- 周りへの気づかいがなくなり頑固になった
- 自分の失敗を人のせいにする
- 「このごろ様子がおかしい」と周囲から言われた

不安感が強い

- 一人になると恐がったり寂しがったりする
- 外出時、持ち物を何度も確かめる
- 「頭が変になった」と本人が訴える

意欲がなくなる

- 下着を替えず、身だしなみを気にしなくなった
- 趣味や好きなテレビ番組に興味を示さなくなった
- ふさぎ込んで何をしてもおっくうでいやがる



いくつか思い当たることがあれば、受診をお勧めします。

現在、認知症はお薬によって治療することで、進行を抑制することができるようになりました。認知症について聞きたいことがあれば、いつでもお気軽にご相談ください。